



悠優みふね
デイサービスセンター

尾崎 彩夏

2024年6月に入社した尾崎彩夏さんは、現在、悠優みふねのデイサービスセンターで日々の業務に邁進しています。常に目の前の利用者様と真摯に向き合い、自分に何ができるのかを考えて行動し続ける尾崎さんに、これまでの経験や今後の展望について話を伺いました。

● 入職のきっかけと、現在の業務内容を教えてください。

父が理事長を務めていることもあり、「いつかは千寿会の力になりたい」という思いを以前から抱いていました。そのため、大学は社会福祉学科に進学。卒業後は、他の事業所で介護職として経験を積みました。新しく悠優みふねができたタイミングで、私自身も30歳という節目を迎え、次なる挑戦をしたいと考えて入社したのです。

現在は、生活相談員として利用希望者様へのご

案内や契約業務、職場内外の連絡調整、また、ケアワーカーとして送迎や入浴介助なども行っています。利用者様はもちろん、職員の皆さんの話もしっかりと聞いて、働きやすい環境づくりを意識して日々取り組んでいます。

● これまでに学んだことや心がけている点をお聞かせください。

前職では、介護施設、その後はヘルパー事業所で訪問介護も経験しました。初めは言葉遣いや接遇を指導されることも多く、慣れるまでは大変でしたが、1から介護の現場を学び、身についた経験とマナーは、今も多くの場面で活かしていると感じます。

また、千寿会に入社してからは、多くの利用者様と接する機会があり、新しい学びも増えてきました。前職では利用者様と1対1で向き合ってきた



▲ご利用者様と脳トレ

たのですが、現在のデイサービスでは、多いときには15名ほどいらっしゃる日もあります。私が今一番大切にしているのは、利用者様と対話すること。慌ただしい中でも時間を見つけて、「調子はいかがですか」などとお声がけし、お一人おひとりの話に耳を傾けるように心がけています。また、デイサービスではこれまでに経験のない送迎も行っており、命を預かる意識をしっかりと持ち、安全運転を徹底しています。

● 印象に残っている出来事はありますか。

デイサービスオープン時から来られている利用者様とのエピソードが、印象深く残っています。帰宅願望が強く、他の事業所で対応が難しいと悠優みふねに来られた方でした。やはり最初の頃は「帰る、帰る」と何度もおっしゃって、その度に、環境に慣れていただくにはどうすればよいかを職員と話し合いました。利用者様の性格や趣味などを考慮して、編み物に誘ってみたり、呼び止められたときには必ず足を止めて同じ目線になって話をしたり、と細部まで気を配りつつ、寄り添い続けました。すると1~2か月が経った頃から、徐々

に「帰る」とおっしゃる回数が減り、信頼関係が築けてきたと感じられるように。今では、笑顔で過ごされており、「ここに来るのが楽しみで仕方がない」というお言葉をいただけるようになりました。それが何より嬉しく、達成感とやりがいにつながっています。

また、私は生活相談員として契約時に利用者様と顔合わせをしますが、最初は緊張した面持ちでいらした利用者様が、来られる度にどんどん笑顔が増えていく。このような過程を見られるのは、この仕事ならではの幸せな瞬間だと感じています。

● 今後の目標をお聞かせください。

昨年7月のオープンから、少しずつ利用者様が aumentando しているものの、まだまだ発展途上といえる悠優みふね。もっと地域の方々に、良さを知らせていきたいと考えています。さらなる活性化のために力を入れているのは、広報誌の作成です。デイサービスでの様子やレクリエーションの風景、おやつ作りなど、様々な行事の写真を掲載。この広報誌を利用者様にお配りすることで、少しずつ悠優みふねの良さが口コミで広がっていったらと思っています。利用者様ができるだけ長く在宅での生活を続けられるように、「元気でいなきゃ!」と思える活力源となる居場所を目指し、これからも精一杯頑張っていきます。

語る言葉の隅々に利用者様を思う気持ちがあふれている尾崎さん。強い責任感と愛情を胸に力を尽くし、これからの千寿会の発展を支えていくことでしょう。



▲物療機器のお手伝い

千寿会のここがすごい!

人間関係や働きやすさへの不安を抱く方も多いと言われる介護業界。そのような中、他事業所での経験を経て、昨年の夏に千寿会に入職した西本さんに、働いてみて感じた職場の魅力について伺いました。



小規模多機能みんなの家にしもとことり
西本 小都里さん

千寿会を選んだ理由

前の職場を辞めるときに、当時の同僚から勧められました。家の近くに新しくできた施設であることに加え、面接で訪れた際に職員の方々がとても優しく見えたことが、大きな決め手になりました。

働きやすさ抜群! 職場の魅力

笑顔あふれる雰囲気と柔軟な休暇制度

職場の雰囲気がとても良いことです。職員も利用者様も楽しい雰囲気で、常に笑顔が絶えません。また、先輩もとても優しく、わからないことがあると丁寧に教えてくださいます。さらに、休みが取りやすく、変更が必要な際も事前に伝えれば柔軟に対応してもらえるのでとても助かっています。

「ここで良かった」と実感した瞬間

利用者様と職員が冗談を言い合いながら、和気あいあいと笑っている姿を見たときです。職員が冗談を言うと、利用者様がさかさツッコミを入れるほほえましい光景に、「ここで働けて良かった」と感じました。

ここが一番好き!

上司や同僚に何でも相談できる点が魅力です。失敗したときも的確なアドバイスをいただけます。仕事のことだけでなく、プライベートな悩みも気軽に相談できる環境が整っています。

忘れられないアドバイス

入職した頃の頃、電話対応で誤った内容を伝えてしまったことがありました。そのとき、上司が「わからないときは『確認いたしますので、少々お待ちください』と言えば良いよ」とアドバイスしてくださいました。頭ごなしに叱ることなく優しく指導していただけただけで、職場環境の良さを実感した瞬間でした。



意気込み

これからも、利用者様にたくさんの笑顔を届けられるよう一生懸命頑張ります。引き続きよろしくお願いいたします。

私の歩んだ道

人生の歴史を伺うこの企画。今回は、お母様の介護経験がきっかけで介護福祉士への道を目指した上川さんに、多くの試練を経て、今大切にしていることや職場でのコミュニケーションの重要性について、教えていただきました。

介護福祉士を目指したきっかけ

母の介護経験がきっかけで介護の道を勧められる

高校卒業後、航空自衛隊に入隊しましたが、母親の介護のため2年で退職。その後は父親の大工仕事を手伝っていましたが、40歳のときに父親が胃癌で亡くなり、その3年後には母親も病気で亡くなりました。その後、公共職業安定所や周りの方に介護の道を勧められて介護福祉士実務者研修に参加し、医療的ケアを学ぶ講師から指導を受けました。陽光園本館で3年間の実務経験を積んで介護の知識と技術を学び、介護の資格を取得しました。



陽光園本館 介護リーダー
うえ かわ けん し
上川 建志さん

利用者様との関わり方

気持ちに寄り添って話を聞くこと

利用者様はご家族様よりも私たちと接する時間が長いので、その思いや悩みを理解することが重要です。日々のコミュニケーションと信頼関係の構築を意識して接しています。

入職当初、利用者様から「私の話を聞いてくれてありがとう」と感謝されたことがあり、真剣に話を聞く姿勢が伝わったのだと思いました。寄り添って話を聞くことで喜んでいただけたことが嬉しく、ご家族様からの感謝の言葉が私の支えになっています。

過去の経験が 活きていると思うこと

さまざまな研修への参加が自信につながる

介護リーダーや認知症介護実践者研修の受講が自信につながっています。50歳近い私ですが、失敗を恐れずにチャレンジすることで自身の成長を促したいと思っています。認知症実践者研修では、利用者様の帰宅願望を和らげる取り組みを発表。帰宅願望の強い利用者様の希望に寄り添うことでBPSD(認知症の行動心理症状)の改善を目指し、利用者様の意見を尊重しています。

周囲との コミュニケーションのとり方

気軽に話しかけることができる雰囲気づくり

若い職員やフィリピンからの技能実習生の状況を理解しながら、共感をもってコミュニケーションを図ることが重要だと考えています。1人で抱え込まず、チームで対応することを意識。そのため、楽しい雰囲気づくりや気軽に話しかけることができる環境づくりを心がけています。

職員の皆さんへメッセージ

40歳を過ぎてもなお右も左もわからない状態でしたが、先輩方の指導やアドバイスのおかげで、今の仕事を続けられています。私を支え、受け入れてくれた職員の皆さんや上司に心から感謝しています。

